沖縄島のオオクチバス

嶋津信彦

沖縄島のオオクチバスは，1963 年頃に米軍基地内にある恩納ダムで遊漁を目的として放流されたものが最初とされている（諸喜田，1984）．以来，大城ダムや龍譚池，南風原ダムなどで生息が確認されている（幸地，1997）．近年の生息状況を明らかにするため，2004 年以降に大城ダム，南風原ダム，千原池，比謝川，天願川，億首川において調査を行った．

オオクチバスは，大城ダムでは 2004 年の 3 回の踏査で 1 個体，千原池では 2004-2006 年の 20 回以上の踏査で 4 個体，比謝川では 2005-2007 年の 20 回以上の踏査で 200 個体以上，億首川では 2007 年以降の 15 回以上の踏査で斃死した 1 個体が採集された．南風原ダムでは 2005-2007 年に 20 回以上，天願川では 2006 年に 5 回踏査したが採集されなかった．天願川水系山城ダム貯水池では 2006 年に複数の幼魚が目視確認された．

千原池で採集された 3 歳の雄と 4 歳の雌は，それぞれ標準体長が 38 cm と 43 cm であった．比謝川で採集された個体は，年齢 0-3 歳，標準体長 9-31 cm であり，満 1 歳で標準体長 13 cm，2 歳で 18 cm，3 歳で 23 cm に達すると推定された．産卵期は主に 1-4 月であると推定された．胃内容物調査では，餌の大部分はテラピアなどの外来種であったが，タウナギのように琉球列島で絶滅が危惧されている種も見つかった．比謝川の支流与那原川の上流にある倉敷ダム貯水池内ではオオクチバスが定着しており，その一部が時折の越水とともにそこから流出し，比謝川水系全域に分散していったと推察された（嶋津，印刷中）．

沖縄島のオオクチバスは，比謝川水系を除いて劣勢な生息状況にあった．比謝川でもテラピア類が優占しており，目立つ存在ではなかった．しかし，これまで確認されていなかった水域で今回新たに発見されており，分布の拡大が認められることから現在生息が確認されている水域では容易に採集できない程度にまで駆除を行い，拡散源となるのを防ぐ必要があると思われる．

引用文献

諸喜田茂充（1984）帰化動物．沖縄の生物日本生物教育会沖縄大会記念誌，377-383.

幸地良仁（1997）淡水魚類．沖縄の帰化動物．沖縄出版，沖縄，68-121.

嶋津信彦（印刷中）沖縄島比謝川に侵入したオオクチバスの生態学的研究．人と自然．